

女と男の一行詩



応募者数 389名
応募総数 942点

最優秀賞

「手伝うよ」「なんていいパパ!?
大間違い それって私の仕事と
決めてない??」

平成時代、共働きが多くなり家事を手伝う男性が増えたと感じます。令和新時代は、更に進化して当然のようにごく自然に家事をしってくれると良いと思います。

清重恵美さん（一般）

優秀賞

母の毎日の楽しみは 父が作る晩ご飯

両親共働きの家庭で仕事を終え、晩ご飯は母が作るというのが当たり前ではなく、父の作る晩ごはんを楽しみに仕事を頑張る母を想像してこの作品を書きました。

相澤 月さん（高校生）

優秀賞

手伝ってくれたは いいけど
「やってやった」は腹が立つ

祖父母の家に行った時に「ご飯作ってやったぞ」「ありがとう」と思ったのにその言い方」という会話を聞き、言葉って大事だなあと思い詩にしました。

三上朋楓さん（高校生）

入選

結婚し 増える負担は 妻ばかり

普段何もやらない主人に対しての不満を作品にしました。この作品を見て私の思いが少しでも伝わって協力し合えるようになればいいなと思っています。 宇野照美さん（一般）

入選

パパ定時 子どものお迎え ママ

残業

主人も疲れてる中子どものお迎えや家事も手伝ってくれて仕事が残ってる時は安心して仕事させてもらってます。本当に感謝です。パパいつもありがとう！

佐々木りささん（一般）

入選

男が社長になると「社長」

女が社長になると「女社長」

普段よく耳にする「社長」という言葉で、女性が社長だと「女社長」になってここで男女の差があると感じ、書きました。

横山舞香さん（高校生）

決点

令和時代 「オイオチャ、オイメシ、オイオフ

□「 絶滅危惧種に指定され

清重恵美さん（一般）

